



学校だより

# みどりの

○考え伝え合う子

○心豊かな子

○元気な子

○やりぬく子

令和4年3月1日

## 「当然のことをただけです」

校長 遠藤 昌司

2月の後半は厳しい寒さの日が続いていましたが、ここへ来てようやく暖かな春の陽ざしを感じられるようになってきました。授業参観・懇談会を中止としたため、この一年間の成長の様子をご覧いただけず残念でしたが、子ども達は卒業・進級に向け、学年の仕上げをしているところです。

先日、大和市でキーホルダーなどを製造している「あすなる舎」さんから、大和市の小・中学生を対象に東京オリンピック・パラリンピックのマスコットの寄贈があり、本校児童にも配付しました。地元企業として喜んでもらえればとのご厚意だそうです。これも地域からの温かい支えの一つだと思います。ありがたいことです。

2月には冬季オリンピック北京大会が開催され、ウインタースポーツでの熱い競技の様子が連日放映されていましたが、同じ年度に夏・冬のオリンピック・パラリンピックが開催されるということは、考えてみればとても珍しく、運の良いことでした。

勝利を手にした選手の喜びいっぱいの声はこれからも伝えられるでしょうし、それとともに、さまざまなエピソードも紹介されています。

そんな中で、スキージャンプ混合団体競技の高梨沙羅選手を慰めた人の話は、とても印象深いものでした。競技をご覧になった方はご存じだと思いますが、高梨選手は見事な大ジャンプを決めたそのすぐ後に、まさかの規定違反で失格になってしまいました。とてもショックを受け泣き崩れているその姿を見かねた人が、言葉をかけ、そっとティッシュを差し出した姿は、ニュースでも取り上げられていました。後にそれが、ドイツチームの理学療法士だということが分かりました。テレジア・シュスターさんというその人は、取材を申し込まれたところ自分はその立場にはないと断る代わりに、メッセージを寄せたそうです。毎日、競技のために精一杯頑張っている選手を支えるシュスターさんは、高梨選手が悲しんでいる姿に胸が張り裂けそうになったそうで、その優しい気持ちが世界中のたくさんの人の感動を呼ぶことになりました。ただ、自身のその行動についてなんら得意になることもなく、「自分は理学療法士として当然のことをただけです。」と言われたそうです。

社会の中で、人が自分の役割を果たすことは、他の誰かの助けになったり、支えになったりすることにもつながります。学校という場で考えてみると、各家庭、地域の方々、そして教職員は支える立場となります。それぞれの役割を「当然のこと」として担い、支えられる子ども達は感謝の思いを伝えることができる、そのような緑野小学校を目指していきたいものです。